

令和8年度 JAのと かぼちゃ栽培講習会

1. 生育概況

定植は4月13日から5月上旬に行われた。4月中下旬に気温が高い日がみられ活着不良の畑では、葉焼けなどの高温障害がみられた。

ポリおよび不織布のトンネル被覆では風によるまくれも少なく風の被害はほぼ見られない。

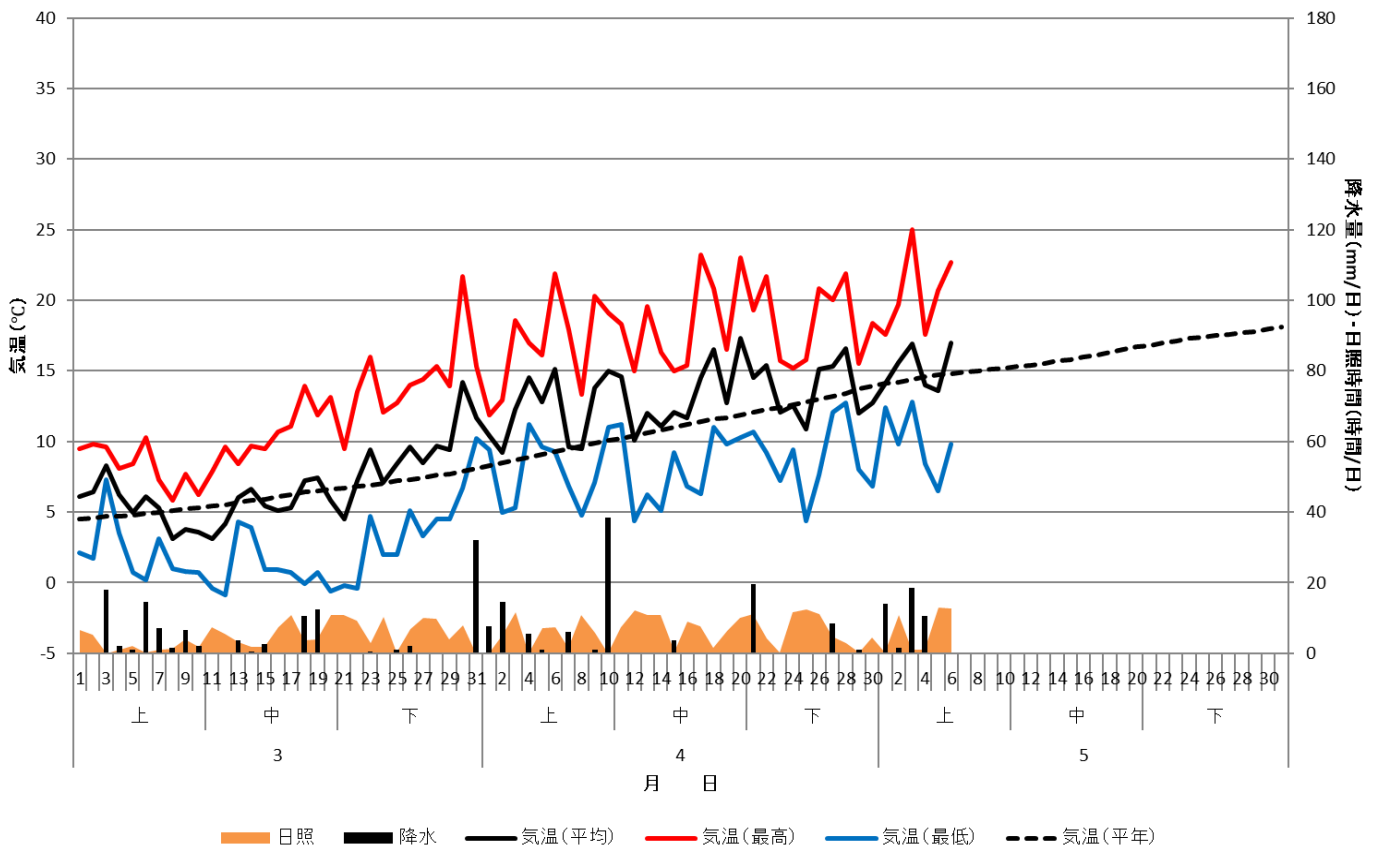
5月連休明けの子つるの生育はつる長10cm、葉数3枚ほどで株あたりのつる数は3から4本程度であった。今後、被覆除去が進むが、初夏は風の強い日が多く今後風対策が必要。



強風対策の例(Uピンでつるを固定)

【気象データ】

R08 輪島の気象(日別)



【向こう1か月の天候の見通し】 北陸地方:新潟地方気象台 5月7日発表(平年比)

気温：高い確率60% 降水量：少ない確率40% 日照時間：多い確率40%

5月15日頃から
異常な高温が予想されています。

2. ポリおよび不織布トンネルの今後の管理

(1) ポリトンネルの換気

- ① 初期は保温と霜よけ、中期以降は風よけと保湿のため被覆する。トンネル内が30℃を超えないように順次換気穴をあけていく。
- ② 外気温が20度を超えるようになってきたら1番目の穴をあけ、トンネル内が曇らない程度に順次開ける。
- ③ 除去前には穴をできるだけあけて外気温に慣らしておく。

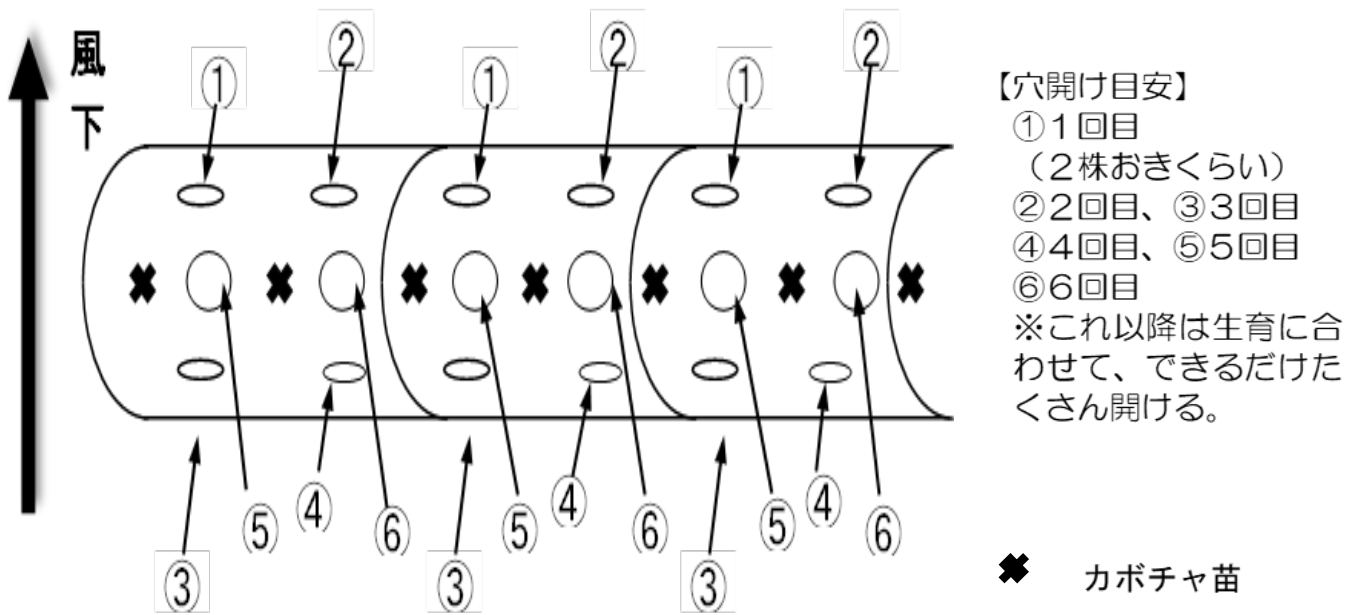


図1 トンネルの穴あけ位置と順番

(2) 不織布トンネル

- ① 穴あけは不要だが、スーパーアイホッカは保温効果が非常に高いため、急に高温になった場合はめくり上げる等の換気が必要になる。
- ② 通気性はある程度確保されているが、通常の降雨では被覆の外側を雨が流れ被覆内は乾燥しやすい。乾燥状態に応じてかん水が必要。
- ③ 常時遮光状態にあり、ポリトンネルに比べて生育は遅れがちで軟弱に育ちやすい。外気温の上昇を見ながら、トンネル内がつるでいっぱいにならない程度で被覆を除去する。

3. 適期追肥と追肥方法

(1) 追肥の施用時期（5月上～中旬）

- ①根は子つるの芯先からやや遅れて伸長してくる。子つるがマルチ上にありマルチの端から根が見え始める前にマルチ両側の1m幅に施用し浅く耕す。
 - ・ 固形30号：30kg/10a または オール14号：20kg/10a
 - 毎年収穫時に草勢が弱い場合1割ほど増やす。
 - ・ 耕起作業が遅れると根を切り生育が停滞するので早めに行う。
- ②カボチャの根は深さ30cmより上部に多く分布するので、肥料を混ぜる深さは15～20cm前後でよい。

4. ポリトンネルの除去と株元整枝

(1) ポリトンネルの除去（5月中頃から）

- ①外気温が最低10度以上になるころ（輪島5月中旬）にトンネル除去の準備に入る。トンネル内側につるがぶつかると折れやすいので、トンネルに当たらない程度を目安に除去する。除去は日中の暑い時間帯は避ける。

- ②除去前につるの固定、雑草抑制、乾燥防止、病害予防のため、わら等を敷く。

※敷わらが無い場合は、バインダー紐などを利用して子づるを早期に固定する。

※トンネル除去直後の防風対策として、除去後できるだけ早くヘアピン杭（30cm規格）などによる株元固定が有効である。



5. 10aあたり収量確保に向けたつる数確保と子つるの整枝

(1) 定植間隔とつる数

つる当たり1玉の着果をめざす。定植は終わっているなので、株間に合わせた仕立て本数とする

- (2) 株間に合わせた子つる数が確保できない場合は、孫つるを含めてつる数を確保する。株元の弱いつるは早めに除去する。

(3) 株元整枝とつるの配置

- ①株元の雄花は除去しない。
- ②子つるの配置は、つる間20～30cmを確保する。
- ③子つるの芯先はできるだけそろえるようにする。長いつるは横から迂回して短いつる先に合わせる。

※長いつるは他のつるの上にもおおむね大丈夫である。

表1 株間と1株当たり目標子つる数

株 間	70cm以上	60cm	40cm	20cm
1株目標子つる数	4本	3本	2本	1本
10a当たり子つる数	1,200 ~1,600	1,260 ~1,380	1,260 ~1,400	1,250

6. トンネル除去後の子つるの管理

- ①トンネル除去時に雄花は除去しない。
- ②トンネル除去時に弱い枝や傷んだ葉を除去する。孫つるの整枝は草勢に応じて行う。
- ③トンネル除去時には、10節以下の株元の雌花は除去する。

7. トンネル除去後の防除

- (1) トンネル除去時以降、予防防除を行う。
- (2) 病害発生時は、栽培指針の薬剤を参照に防除する。

< かぼちゃ防除例 >

使用時期	薬剤名	倍率	備考
トンネル除去直後	アディオソ乳剤	2,000 倍	
	Zボルドー	500 倍	クレフノン加用
5月下旬	モスピラン顆粒水溶剤	2,000 倍	
	ジマンダイセン水和剤	600 倍	*：収穫前日数長い
6月上旬	ダコニール1000	1,000 倍	

注意：農薬登録（使用回数、収穫前日数等）は農薬ラベルで確認のこと。

7. 1株つる数と着果管理 詳細は次回講習会（6月上旬）で説明予定

- (1) 10～15節を目処とし、雌花の開花がそろったタイミングで一斉に着果させる。
旧盆（8月15日）までに出荷するには「6月20日」頃までの着果が目安
- (2) 目標着果節は、10節以上とする。10節以下の雌花は除去する。
- (3) 1株中に1つるでも肥大中の果実がある場合、残りのつるで雌花が開花しても、ほぼ着果しないことが多い。1株の着果数が少ない場合は、開花そろいと天気予報を確認し「開花数が多いタイミングで天気予報が晴れの場合」は、摘果しつけないおす。
- (4) 開花そろいは、開花位置から次の雌花までの葉数が次の開花日となることが多い。天気予報は1週間予報を参考に判断する。

表2 株あたりつる数と着果管理

株あたりつる数	着果管理	管理方法	管理に必要な事項		
			不要	不要	不要
1	不要	不要	不要	不要	不要
2	必要	開花そろいをめがけて一斉摘果	圃場の開花そろいの把握	開花節から次の雌花までの葉数を把握し開花そろいを予測	天気予報を確認し、晴れ予報なら一斉摘果 雨予報なら摘果見送り
3	必要	同上	同上	同上	同上
4	必要	同上	同上	同上	同上

- (5) ミツバチの活動が鈍い場合は人工受粉を行う。
 - ①人工受粉は朝5時頃から花粉の有無を確認し9時までには終わる。
(以降は花粉の活力が低下する)
 - ②人工交配は花粉を雌花の柱頭に手または絵筆でか花粉をまんべんなく付ける。
(1本の雄しべで4花程度受粉可)
 - ③花粉は乾燥や水分に非常に弱いため、雨天や日中は受粉作業を行わない。



- ④人工交配には翌日開花すると見られる雄花を、前日の夕方までに採取し、水の入ったバケツ等にさしておき、室内で一晩管理し使用する。